

はかた中だより

第 6 号

令和4年6月17日

校訓 自らが学ぶ

学校の教育目標

豊かな心を持ち

主体的に行動する生徒の育成

TEL: (0897) 72-1055

FAX (0897) 72-1053

これから大学進学を志す方やその保護者の方、小中高等学校の教職員等に向けた

文部科学大臣メッセージ

内閣総理大臣を議長とする教育未来創造会議において、「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」が取りまとめられました。この提言を踏まえ、その実現に向けて社会全体が子どもたちの未来のために力を合わせていくことを目指し、社会の改革の流れを喚起するための文部科学大臣メッセージを発表しましたのでお知らせします。

本提言においては、

①未来を支える人材を育む大学等の機能強化

②新たな時代に対応する学びの支援の充実

③学び直し（リカレント教育）を促進するための環境整備、

に焦点を当て、今後取り組むべき具体的方策として、

・理系の学修を行うための大学の受け皿を抜本的に拡充すること

・特に女性が理系の分野で大きく活躍していける社会を構築すること

大学・高等専門学校のみならず、大学等を志す子供たち自身やその保護者、

学校の教職員、そして企業等から広く御理解、御協力いただくことが不可欠であると考えております。

本メッセージの要旨

(生徒たちに対して)

- ・ 今後5年後、10年後に向けて、入試において文系・理系の区別なく広く深い学びが評価されるようになるなど、大学が大きく変わっていくこと
- ・ これからの時代、理系は「男性の職場」と言った固定観念はなくなっていくことから、自分自身が興味を持てる分野、得意な分野を徹底的に追求し、自らの可能性を広げてほしいこと

(保護者に対して)

- ・ 特にIT系の人材は2030年に最大79万人も不足するという予測もあるなど、理工系学部を卒業した学生は、男性、女性を問わず産業界でも強く求められること
- ・ 「女子は文系」といった固定観念から離れ、子供たちの幅広い選択を支えてほしいこと

(小中高等学校の教職員に対して)

- ・ 大学に、文理横断的な入学者選抜に転換するよう強く促していくことから、高等学校においても早期から「文理分断」教育から脱却し、生徒の可能性の芽を育ててほしいこと
- ・ 学校における男女の違いに基づく先入観を排除するために、お力を貸してほしいこと

未来の個人の幸せ、未来の社会の豊かさは、教育によって創造されるものです。子供たちや社会の未来が更に輝かしいものとなるよう、今後とも、皆様のより一層の御理解・御協力を心からお願い申し上げます。

令和4年5月24日 文部科学大臣 末松信介

1. 6月の参観日並びに自然の家保護者説明会を行いました。

10日（金）に、6月の参観日を実施いたしました。今月の参観日のテーマは、保護者の皆様や生徒たちに、コミュニティ・スクールとは何か、そして、その目指す方向性を周知することでした。そこで、体育館に全校生徒や保護者の皆様、学校運営協議会の皆さんに集まっていただき、全校学習会を開催しました。コミュニティ・スクールとは、学校の運営を学校の教師のみが行うのではなく、保護者、生徒、地域の方々と共に行い、「ふるさと伯方」を愛する児童・生徒を育てることを通して、学校を核とした地域の活性化を目指していきます。

この全校学習会では、「どんな大人になりたいか」「伯方島をどんな地域にしたいか」「伯方中学校をどんな学校にしたいか」を話し合いました。全校生徒や大勢の保護者、地域の方々の前で発表するのは、勇気がいったことと思います。「誰もが意見を言え、それを真剣に聞いてくれる仲間がいる学校にしたい」などと、堂々と語る生徒の姿に感動を覚えました。

次に、10班に分かれ、「自転車での登下校のマナーを向上させるにはどうすればよいか」について熟議を行いました。保護者の方々や地域の方々にも参加していただき、活発な意見交換が行われました。3年生のすばらしいリーダーシップと、保護者や地域の方々が真剣に考えてくださっていたことに感銘を受けました。



2. 中学生就職ガイダンス（マナー講座）を受講しました。



2年生が、マナー講座を受講しました。外部から講師の先生に來校していただき、良き社会人になるために、正しい挨拶やお辞儀の仕方、話の聞き方などを教えていただきました。ちょっとしたしぐさ（おじぎをする際女子はおなかの前で手を組む）や挨拶後の笑顔で人の印象ってかなり違ってきます。また、人の話を聞くときは、アイコンタクトを取ることや体を相手に向けること、最後まで聞くこと、うなずきながら聞くこと、

あいづちを打つことなどが相手に好印象を与えることを学びました。今日学んだことを、日々の生活の中で意識して、「good manner」を身に付けて、良き社会人になってくれることを期待します。上の写真の女子生徒のおじぎ姿、とても美しく感動しました。

（ちょっといい話）

13日（月）の朝、いつもは早めに登校する2年生の女子の仲よし2人組が、全校生徒の最後に登校して来ました。2人はその理由を何も語りませんでした。翌14日（火）に、小学校の先生が、1年生の授業の様子を参観に來られました。その際、「昨日、2年生の〇〇さんと△△さんが、一人で登校していた小学1年生を、自転車を押しながらランドセルを持ってわざわざ小学校まで連れてきてくれました。大変ありがたかったです。」と教えてくれました。すぐさま2人に確認すると、「一人がかわいそうだったから連れて行ってあげました」と当たり前のように言うのです。入学間もない小学1年生は、集団登校に遅れてしまうと、学校に行くことをあきらめて家に帰ってしまった、などということがよくあります。思いやりのある2人の行動に、心よりの拍手を送りたいと思います。



